



自由民主党
吉川市議員団
松崎 誠

問 東部地域の交通施策で、タフシー助成を継続しつつ実施する調査は、どのような対象・方法で行うのか。高齢者、子育て世帯、通勤通学者等属性別ニーズの把握は行うのか。また、福祉事業者提案の空き車両活用による移動サービスの具体的スキーム、法制度上の課題や採算性の検証状況は。試行にとどまらない持続可能な交通体系の長期ビジョンを問う。

答 一部バス路線の廃止を撤回し継続する方針で、今後協議を進める。調査はニーズ把握を目的に実施し、詳細手法は検討中。空き車両活用は福祉事業者からの提案を踏まえ、制度面や採算性などの課題整理を進める。地域特性に応じた実証的取組も含め、市・事業者・地域が連携し、持続可能な交通体系の構築を目指す。



未来会議
よしかわ
戸田 馨

問 第6次吉川市総合振興計画後期基本計画の策定にあたり、人口減少時代を踏まえ、人口推計など基礎データの検証方法、幸福実感や持続可能性といった質的視点を含む指標の整理、さらに総合振興計画と総合戦略の関係性をどのように位置づけ

答 基礎調査により人口動態や社会状況の客観データを整理し、市の現状を共有しながら計画策定を進める。指標は従来の量的評価に加え、幸福実感や持続可能性など質的評価も取り入れる方向で検討するが、評価手法には課題もあるため慎重に整理する。総合振興計画と総合戦略については、改定時期を見据え、国の動向も踏まえながら計画の整理・一体化を図っていく。



平和市民クラブ
降旗 聡

問 中央公民館につながる下水道管の耐震化にむけた設計作業に取り組むが、この場所にした選定理由と下水道管の耐震化計画について。

答 能登半島地震を機に、国から避難所等につながる上・下水道の一体的な整備が求められた。市では令和7年1月に上・下水道の耐震化の計画を策定したところ。上・下水の一体的な整備を求められている中、水道管が耐震化されており、また、下水の本管に近く市内でも下水道として一番大きな口径がある中央公民館につながる下水道管から耐震化を進めることに決めた。今後は、これらの考えと共に、他の道路や水道の工事と二重投資とならないようしっかりと考えながら整備を進めていく。



SELECT吉川・
自民・参政・維新・
無所属
稲葉 剛治

問 市制施行30周年という節目、吉川市の未来に対する市長の決意を伺います。

答 市民の力と自治を信じ、行政を小さくし地域へ分権していく。そのために人材を育て、若い世代が志を持つことが必要です。私は先人から預かったペンで大きな画用紙にフリーハンドで絵を描いている存在です。市民や職員と共同でペンを握り、何度も重ね描きしながら形を整えていく。その絵こそが吉川市の未来です。やがてそのペンを次の誰かに託す。その間、派手で目立つ政策を一人で描くのではなく、静かに脈々と続く丁寧な市政を、市民や職員とともに円を描くように積み重ねていきたいと考えています。